

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110115799		
法人名	医療法人長生会		
事業所名	ケアホームどんぐり		
所在地	佐賀市嘉瀬町中原1676-3		
自己評価作成日	平成28年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年3月11日	外部評価確定日	平成28年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の健康管理については、関連医療機関との連携により万全を期しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の周りは四季の移ろいが感じられる田園に囲まれ、近くには馴染みの森林公園、幼稚園、小学校、病院、商店などがあり、利用者に季節感や生活の匂いを感じさせてくれる。 職員は平成15年の事業所開設以来の一貫した運営理念である「能力に応じた自立支援」、「人格の尊重と利用者の立場に立った援助」、「明るい家庭的な雰囲気、家庭や地域との結び付き」の具体的な実現を目指して日々の支援に臨んでいる。「家庭にいるような心地の良さ」と「真心をこめたサービス」は、利用者に安心感と信頼感をもたらしている。職員は、管理者の適切な指導や助言も受けながら、利用者を人生の先輩として敬い、「利用者や家族と仲良くし、要望や意見を聴くようにしているかなあ」、「良い質のサービスができているかなあ」との思いを持ちながら日頃の支援に臨んでいる。 明るく、静かなリビングは、広くて見通しも良く、各ユニットの利用者が自由に行き来ができ、団らんと交流の場ともなっている。また、花見、菖蒲見学、秋祭り、紅葉狩り、もちつき、初詣などの行事も計画され、利用者の楽しみになっている。 事業所は協力医療機関でもある病院と隣接しており、24時間何時でも相談や対応が出来る健康面での支援は、家族にとっても何よりも安心できる一面である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA（1丁目） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（2丁目） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議などで繰り返し伝え、理念を全職員が共有できるようにしている。	定期的な会議などで繰り返し伝え、理念を全職員が共有できるようにしている。	事業所開設以来の理念であるが、地域密着の観点から再検討している。管理者の指導や助言は、職員の慣れからくる介護を戒め、初心の気持ちに立ち返らせている。また、新採用の職員も理念を具体的に理解しながら支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関前に花を置いたりして、散歩の途中に気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。入居者が外に出たとき等に積極的に声をかけ、交流を深めている。	玄関前に花を置いたりして、散歩の途中に気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。入居者が外に出たとき等に積極的に声をかけ、交流を深めている。	町内会の組織には加入していないが、地域からの認知症の方の支援についての相談に乗ったり、町内の祭りへ準備段階からの参加を検討している。また、散歩の時や、幼稚園や小学校の運動会等の機会に地域の方々との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症に関することで勉強したこと等を発表し、地域に向けて発信している。 相談があれば認知症の人の、具体的な支援の方法を指導している。	運営推進会議で、認知症に関することで勉強したこと等を発表し、地域に向けて発信している。 相談があれば認知症の人の、具体的な支援の方法を指導している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に関き、当ホームの取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。 また、認知症について勉強したことを発表している。	運営推進会議を定期的に関き、当ホームの取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。 また、認知症について勉強したことを発表している。	単なる報告だけでなく、認知症の方の不安、暴言や暴力などについての具体的な資料も出して会議の参考になっている。ホーム便り(どんぐりだより)の編集を工夫したり、もちつき行事や防災に関する意見を運営に活かしているのはその一例である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人全体で連携を深めている。担当地区の包括支援センターとは密接な連携をとり、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	法人全体で連携を深めている。担当地区の包括支援センターとは密接な連携をとり、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	行政の福祉担当課に度々出向くことで、行政との連携が取れている。支援の状況、課題、情報等は共有されている。利用者の相談、生活保護や成年後見人のこと等個別のケースで相談もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修を行っている。	定期的に身体拘束についての研修を行っている。	これまで身体拘束の事例は無い。法人全体や事業所独自に勉強会を開き、身体拘束だけでなく、言葉による心の拘束も無いようにしている。玄関の施錠も無く、外出する利用者には一緒に見守りながらの支援である。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時はもとより、家族には、普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。	契約の締結時はもとより、家族には、普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	面会時や家族も出席する行事の時、介護計画の更新時などあらゆる機会に声をかけている。職員の笑顔のある明るい応対に家族は相談しやすさを感じている。居室の移動、介護計画への反映、外出先の検討等運営に活かした事例は多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	定例の会議だけでなく、随時、職員間で腹藏なく意見や提案を出し合っている。食事形態の対応、外出場所の変更、職員が意欲を持って支援にあたる環境づくりなど運営に活かしている。理事長も度々事業所を訪れ、介護現場を体感し、職員の意向を尋ねている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績により、仕事を任せるなどしている。	職員の努力や実績により、仕事を任せるなどしている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受け る機会の確保や、働きながらトレーニングして いくことを進めている	定期的な勉強会はもとより、日常の 業務の中で職員が学べるよう、指導 できる職員配置している。	定期的な勉強会はもとより、日常の 業務の中で職員が学べるよう、指導 できる職員配置している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を 向上させていく取り組みをしている	運営者は、機会を捉えて職員を研修 会に出すなど交流の機会を作ってい る。	運営者は、機会を捉えて職員を研修 会に出すなど交流の機会を作ってい る。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾 けながら、本人の安心を確保するための関係 づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、本人 に一度ホームに来てもらう等して会 うようにしている。その際に、本人の要 望などを聞いている。	相談を受けたら、可能な限り、本人 に一度ホームに来てもらう等して会 うようにしている。その際に、本人の要 望などを聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾 けながら、関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、本人 に一度ホームに来てもらう等して会 うようにしている。その際に、本人の状 態や家族の要望などを聞いている。	相談を受けたら、可能な限り一度 ホームに来てもらっている。その際 に、本人の状態や家族の要望などを 聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家 族等が「その時」まず必要としている支援を見 極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	相談を受けたときに、現在の状況を できるだけ詳しく聞き、別のサービス が必要だと思われる場合は、その サービスを紹介している。必要に応 じて、具体的な施設を紹介している。	相談を受けたときに、現在の状況を できるだけ詳しく聞き、別のサービス が必要だと思われる場合は、その サービスを紹介している。必要に応 じて、具体的な施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置 かず、暮らしを共にする者同士の関係を築い ている	入居者のされていた仕事の話などを 聞き、入居者の得意分野のことを教 えて頂き、入居者一人ひとりが活躍 する場面を作っている。	入居者のされていた仕事の話などを 聞き、入居者の得意分野のことを教 えて頂き、入居者一人ひとりが活躍 する場面を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りに行事の予告をし、参加を呼びかけたり、誕生月等に、その方専用のホーム便りを作ったりして、家族の参加を呼びかけている。	ホーム便りに行事の予告をし、参加を呼びかけたり、誕生月等に、その方専用のホーム便りを作ったりして、家族の参加を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や関係の継続に努めている。 ご家族に協力してもらい、馴染みの場所へ外出することもある。	馴染みの場所や関係の継続に努めている。 ご家族に協力してもらい、馴染みの場所へ外出することもある。	かつてはよく出かけた近くの森林公園や菖蒲園に出かけている。家族の協力を得ての夕食、行きつけの理容室に出かける、取り壊しになる自宅を訪ねる等関係が途切れないよう支援している。知り合いの訪問もあっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順等に配慮し、仲のいい入居者同士の交流を促している。	席順等に配慮し、仲のいい入居者同士の交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば、支援を行っている。	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば、支援を行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の情報収集は勿論、入居後も本人や家族の意向は機会のあるごとに聞いている。	入居時の情報収集は勿論、入居後も本人や家族の意向は機会のあるごとに聞いている。	担当制を取ることで、職員と利用者との関係がより深まり、支援に活かされている。日常の会話、つぶやき、ちょっとした行動、表情の変化等あらゆる情報から思いの把握に努めている。得られた情報は全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	利用者、家族の要望や意向を十分に踏まえた介護計画である。利用者の視点に立った具体的で実現可能な計画で、評価、状況に応じた見直しも定期的に、又は状況の変化に応じてきちんと行われている。担当者会議には家族も参加している。計画は全職員が共通して認識している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心掛けている。入居者一人一人に担当をつけており、細やかな記録を残している。	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心掛けている。入居者一人一人に担当をつけており、細やかな記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに来てもらったり、運営推進会議に地元の民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。	ボランティアに来てもらったり、運営推進会議に地元の民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	利用者、家族が希望する病院での受診であるが、現在は全員が協力医療機関での受診希望で、主治医と連携しての健康管理である。主治医は週2回の定期的な往診と24時間体制で何時でも相談できる体制である。健康状態によりレクチャーを受けての支援も行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な指示をもらっている。	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が安定した時点で、退院の為に話に行っている。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、話し合いを行っている。	状態が安定した時点で、退院の為に話に行っている。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認を取っている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認を取っている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	重度化した場合の指針に基づいて入居時に納得のいく話し合いがもたれている。これまで家族の希望で看取りの事例も数例あり、状況の変化に応じて随時主治医、家族と連携を取りながら最期を迎えている。職員へのフォローアップも厚くできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。	定期的に防災避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。	法人との合同避難訓練だけでなく、事業所独自に年2回の避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練で避難方法、通報、状況に応じた避難経路、避難場所の確認をしている。利用者も参加しての訓練で、車椅子も利用している。防災避難訓練の結果については、運営推進会議でも報告し、意見をもらっている。	近隣住民や地元消防団の参加等を含めてこれまで以上に地域との連携協力体制の構築についての再検討を期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、「人生の大先輩である」と言う事を機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	入居者は、「人生の大先輩である」と言う事を機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	人としての尊厳の尊重を支援の基本にしている。利用者のこれまでの生活歴、人生歴を生きてきた証しと捉え、敬いの心で接している。言葉づかい一つでも、指示、命令、禁止の言葉が無い。個人情報、運営規程に基づき、きちんと守られている。	
----	------	---	---	---	---	--

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA（1丁目） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（2丁目） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識して造り、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識して造り、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気持ちを最優先にしたケアを心がけている。職員の都合で切り上げたり、急かししたりしていない。	入居者の気持ちを最優先にしたケアを心がけている。職員の都合で切り上げたり、急かししたりしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人など、希望に応じて援助している。	職員は個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人など、希望に応じて援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしている。	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしている。	職員もそれとなく見守りながら、同じテーブルで同じ食事を摂っている。利用者同士の会話もあり、和やかで家庭を思わせる食事風景である。その時の体調や飲み物の好みに応じて、献立を変える、減塩食にする、別の飲み物に替えるなどの支援がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者でも、日中は可能な限りトイレに誘導している。	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者でも、日中は可能な限りトイレに誘導している。	排泄習慣やパターンが把握され、トイレでの排泄や排泄自立に向けた支援が行われている。おむつの種類を変える、屋間は共有トイレへ誘導する、様子を察してそれとなく声をかけるなど色々な工夫、支援である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、散歩等も行っている。	毎日ティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、散歩等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて援助している。入浴が嫌いな入居者には、言葉のかけ方を工夫をしている。時間帯も本人のペースを尊重している。	入居者の希望に合わせて援助している。入浴が嫌いな入居者には、言葉のかけ方を工夫をしている。時間帯も本人のペースを尊重している。	入浴の準備は毎日できており、希望する方は毎日でも入浴できる。入浴順番や入浴時間等に特に決まりは無い。入浴をおっくうがる方には、気分を変えて後で入浴してもらったり、足湯、全身清浄等に対応している。冬場は特にヒートショックに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分で自然に眠れるように援助している。	寝つきの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分で自然に眠れるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の持てる能力や希望に応じ、茶碗拭き、洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識して頂けるよう支援している。	入居者の持てる能力や希望に応じ、茶碗拭き、洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識して頂けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や状態によって外出を支援している。家族の協力の下馴染みの場所等へ外出することもある。	入居者の希望や状態によって外出を支援している。家族の協力の下馴染みの場所等へ外出することもある。	季節や天候によっては、近くの公園や田園風景を見ながらの散歩、日光浴、希望する方と買い物に出かけるなど色々と支援している。弁当を準備しての花見は、毎年の楽しみでもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額にならない程度のお金を持って頂いている。 必要に応じて、買い物支援を行っている。	高額にならない程度のお金を持って頂いている。 必要に応じて、買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉かけを行っている。	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の表札やトイレの表示を手作りで作成し、風呂ものれんをかけるなど、家庭的な雰囲気配慮している。	各居室の表札やトイレの表示を手作りで作成し、風呂ものれんをかけるなど、家庭的な雰囲気配慮している。	広々としている居間で、利用者はソファ、椅子、畳の間などで思い思いに過ごしている。静かで無用な刺激が無い。掘りごたつは利用者の足の腫れを考慮して撤去している。テレビ、本、新聞等も置かれ、好きな方はそれぞれに利用している。雑飾りが季節感を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下を含む共有空間を広く取り、リビングには畳を使用している。応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。外にはベンチも配置している。	廊下を含む共有空間を広く取り、リビングには畳を使用している。応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。外にはベンチも配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く取り、家具等の持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。 入居者の写真等、馴染みのものを持ち込んでもらっている。	居室は広く取り、家具等の持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。 入居者の写真等、馴染みのものを持ち込んでもらっている。	各居室がその方らしい落ち着いてゆくりと過ごせる所になっている。馴染みの物の持ち込みには特に制限は無い。使い慣れた筆筒、小テーブルや椅子、家族との写真、仏壇、趣味の本や道具、テレビ、主人と一緒に食事をするためのお茶碗、その他、家族の協力で色々な物が見受けられる。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けのまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台等、適当な高さになっている。物干し台の高さも調整し、入居者が使いやすいように配慮し、浴室やトイレの床は滑りにくい材質になっている。	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けのまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台等、適当な高さになっている。物干し台の高さも調整し、入居者が使いやすいように配慮し、浴室やトイレの床は滑りにくい材質になっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○	○	3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない